

# Cisco マルチサービス IP 間ゲートウェイ機能を使用したローカル ネットワークからリモート ネットワークへの転送

## 目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[トラブルシューティング手順](#)

[トラブルシューティングのためのコマンド](#)

[関連情報](#)

## [はじめに](#)

このドキュメントでは、Cisco Multiservice IP-to-IP Gateway ( IPIPGW ) 機能を使用したローカル / リモート間のネットワークの設定例を紹介します。IPIPGW 機能は、ある IP ネットワークから別のネットワークへの H.323 Voice over IP ( VoIP ) コールをイネーブルにするメカニズムを提供します。

## [前提条件](#)

### [要件](#)

この設定を行う前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- 基本的な H.323 ゲートウェイ設定を実行する。詳細については、『[Cisco IOS H.323 構成ガイド](#)』の「Cisco IOS 音声設定ライブラリ、リリース 12.3」を参照してください。
- 基本的な H.323 ゲートキーパー設定を実行する。詳細については、『[Cisco IOS H.323 構成ガイド](#)』の「Cisco IOS 音声設定ライブラリ、リリース 12.3」を参照してください。

### [使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- 3 つの Cisco H.323 ゲートキーパー ルータ ( Cisco 2610、Cisco 2611、Cisco 2612、Cisco 2613、Cisco 2620、Cisco 2621、Cisco 2650、Cisco 2651、Cisco 2691、Cisco 2610XM、Cisco 2611XM、Cisco 2620XM、Cisco 2621XM、Cisco 2650XM、Cisco 2651XM、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 3725、Cisco 3745、Cisco 7200 シリーズ、Cisco 7400 シリーズ ) および Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(13) T 以降。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 ( デフォルト ) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

## [表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## [背景説明](#)

Cisco マルチサービス IPIP GW 機能にゲートキーパーの中継ゾーン ( via-zone ) が導入されます。中継ゾーンとは、IP-to-IP Gateway と中継ゾーン対応ゲートキーパーを含むゾーンを示すシスコの用語です。中継ゾーン対応ゲートキーパーは中継ゾーンを認識し、中継ゾーン ゲートウェイにトラフィックを送信できます。シスコの中継ゾーン対応ゲートキーパーには、中継ゾーンのコマンドライン インターフェイス ( CLI ) コマンドが含まれます。

中継ゾーンは通常、Internet Telephony Service Provider ( ITSP ) ネットワークの端にあり、VoIP 転送ポイントや、VoIP トラフィックがリモート ゾーン宛先の途中でチャンネルを通るタンデムゾーンと似ています。このゾーンのゲートウェイは、要求されたコールを終了し、トラフィックを最終的な宛先に再発信します。中継ゾーン ゲートキーパーは IP-to-IP アプリケーション以外では通常どおり動作します。中継ゾーンのゲートキーパーは、H.323 バージョン 4 の RAS メッセージの容量フィールドを使用したリソース管理 ( ゲートウェイの選択やロード バランシングなど ) をサポートします。

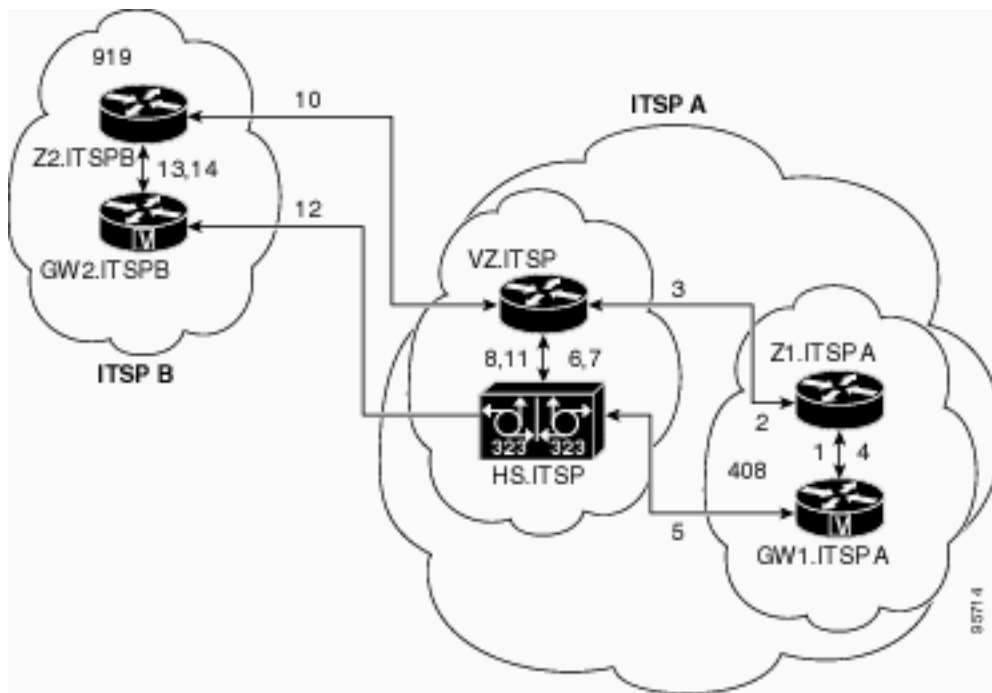
## [設定](#)

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注: このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) を使用してください。

## [ネットワーク図](#)

このドキュメントでは、次のネットワーク構成を使用しています。



## 設定

このドキュメントでは、次の設定を使用します。

- [送信元のゲートキーパー \( Z1.ITSPA \)](#)
- [中継ゾーン ゲートキーパー \( VZ.ITSP \)](#)
- [終端ゲートキーパー \( Z2.ITSPB \)](#)

この例では、エリアコード 408 の発信者が市外局番 919 のパーティに電話をかけると、次のアクションが発生します。

1. GW1.ITSPA が 919 ベースの番号を使用してアドミッション要求 ( ARQ ) メッセージを Z1.ITSPA に送信します。
2. Z1.ITSPA が VZ.ITSP への 919 を解決し、ロケーション要求 ( LRQ ) メッセージを VZ.ITSP に送信します。
3. Z1ITSPA ゾーンから 919 番号への LRQ は、VZ.ITSP で受信されます。VZ.ITSP は Z1ITSPA のゾーンのリモート設定を確認し、ゾーン VZITSP が「invia」ゾーンとして設定されていることがわかります。次にロケーション確認 ( LCF ) メッセージを Z1.ITSPA に送信し、919 コールの宛先ゲートウェイとして HS.ITSP を指定します。
4. Z1.ITSPA はアドミッション確認 ( ACF ) メッセージを GW1.ITSPA に送信し、宛先ゲートウェイとして HS.ITSP を指定します。
5. GW1.ITSPA は 919 コールの設定メッセージを HS.ITSP に送信します。
6. HS.ITSP は ARQ ( answerCall=true 含む ) を使用して VZ.ITSP を調査し、着信コールを許可します。
7. VZ.ITSP は ACF で応答し、コールを許可します。
8. HS.ITSP は 919 プレフィックスに ( またはすべてのプレフィックスに ) RAS VZ.ITSP を指定するダイヤルピアを持つため、プレフィックス 919 では VZ.ITSP に ARQ ( answerCall が False に設定されている ) を送信します。
9. VZ.ITSP ゲートキーパーは、ゾーンプレフィックステーブルを調べることで Z2ITSPB ゾーンがプレフィックス「919」を処理することを特定します。さらに、ゾーンのリモート設定を使用して、独自のローカルゾーン VZITSP が「outvia」ゾーンとして設定されていることを把握します。次に、LRQ を他の IP-to-IP ゲートキーパーへ送信するのではなく、Z2.ITSPB ゲ

ートキーパーに LRQ を送信します。

10. Z2.ITSPB はプレフィックス 919 を自分のゾーン内にあるものと見なし、GW2.ITSPB を指定する LCF を返します。

11. VZ.ITSP は宛先ゲートウェイとして GW2.ITSPB を指定する ACF を HS.ITSP に返します

。

12. HS.ITSP は 919 コールに対して GW2.ITSPB に設定メッセージを送信します。

13. GW2.ITSPB は ARQ ( answerCall=true 含む ) を Z2.ITSPB に送信します。

14. Z2.ITSPB は ACF で answerCall を送信します。

15. HS.ITSP と GW2.ITSPB の間で H.323 コールが接続されます。GW1.ITSPA と HS.ITSP の間で H.323 コールが接続されます。

### 送信元のゲートキーパー ( Z1.ITSPA )

```
origgatekeeper#show running-config
Building configuration...
.
.
.
gatekeeper
 zone local Z1ITSPA cisco 10.16.8.158
 zone remote VZITSP cisco 10.16.10.139
 zone remote Z2ITSPB china 10.16.8.139 1719
 zone prefix VZITSP 919*
.
.
.
!
end
```

### 中継ゾーンゲートキーパー ( VZ.ITSP )

```
vzgatekeeper#show running-config
Building configuration...
.
.
.
gatekeeper
 zone local VZITSP cisco 10.16.10.139
 zone remote Z1ITSPA cisco 10.16.8.158 in via VZITSP
 zone remote Z2ITSPB china 10.16.8.144 1719 out via
VZITSP
 zone prefix Z2ITSPB 919*
.
.
.
!
end
```

### 終端ゲートキーパー ( Z2.ITSPB )

```
termgatekeeper#show running-config
Building configuration...
.
.
.
gatekeeper
 zone local Z2ITSPB china 10.16.8.144
.
.
```

```
.  
!  
end
```

## 確認

ここでは、設定が正常に動作していることを確認します。

[Output Interpreter Tool](#) ( OIT ) ( [登録ユーザ専用](#) ) では、特定の **show** コマンドがサポートされています。OIT を使用して、**show** コマンド出力の解析を表示できます。

注: これらの **show** コマンド出力は VZ.ITSP ゲートキーパーから取得されます。

ゲートキーパーの設定を確認するには、**show running config | begin gatekeeper** コマンドを実行します。

```
termgatekeeper#show running-config  
Building configuration...  
.  
.  
.  
gatekeeper  
  zone local Z2ITSPB china 10.16.8.144  
.  
.  
!  
end
```

また、**show gatekeeper zone status** コマンドを使用してゲートキーパー設定を確認することもできます。

```
termgatekeeper#show running-config  
Building configuration...  
.  
.  
.  
gatekeeper  
  zone local Z2ITSPB china 10.16.8.144  
.  
.  
!  
end
```

コール キャパシティのしきい値を表示するには、**show gatekeeper status** コマンドを実行します。

```
termgatekeeper#show running-config  
Building configuration...  
.  
.  
.  
gatekeeper  
  zone local Z2ITSPB china 10.16.8.144  
.  
.
```

```
.  
!  
end
```

中継ゾーンの統計情報を含む RAS 情報を表示するには、**show gatekeeper performance stats** コマンドを実行します。

```
termgatekeeper#show running-config  
Building configuration...  
.  
.  
.  
gatekeeper  
  zone local Z2ITSPB china 10.16.8.144  
.  
.  
.  
!  
end
```

次の重要な RAS 中継ゾーン フィールドが画面に表示されます。

- inLRQ: — invia キーワードに関連付けられます。 invia がローカル ゾーンであれば、このカウンタはローカル invia ゲートキーパーが終了した LQR の数を示します。
- infwdLRQ — invia キーワードに関連付けられます。 invia がリモート ゾーンであれば、このカウンタはリモート invia ゲートキーパーが転送した LQR の数を示します。
- inerrLRQ — invia キーワードに関連付けられます。 invia ゲートキーパー ID が見つからなかったため、LRQ が処理できなかった回数を示します。通常、ゲートキーパー名のスペルミスが原因です。
- outLRQ — outvia キーワードに関連付けられます。 outvia がローカル ゾーンであれば、このカウンタはローカル outvia ゲートキーパーが終了した LQR の数を示します。このカウンタは、invia ゲートキーパー指定されていない設定にのみ適用されます。
- outfwdLRQ — outvia キーワードに関連付けられます。 outvia がリモート ゾーンであれば、このカウンタはリモート outvia ゲートキーパーが転送した LQR の数を示します。このカウンタは、invia ゲートキーパー指定されていない設定にのみ適用されます。
- outerrLRQ — outvia キーワードに関連付けられます。 outvia ゲートキーパー ID が見つからなかったため、LRQ が処理できなかった回数を示します。通常、ゲートキーパー名のスペルミスが原因です。このカウンタは、invia ゲートキーパー指定されていない設定にのみ適用されます。
- outARQ — outvia キーワードに関連付けられます。 outvia がそのローカル ゾーンである場合に、ローカル ゲートキーパーが処理した ARQ の発生数が示されます。
- outfwdARQ — outvia キーワードに関連付けられます。 outvia ゲートキーパーがリモート ゾーンであれば、この数はこのゲートキーパーが受信して LQR が outvia ゲートキーパーに送られる原因となった ARQ の発生数が示されます。
- outerrARQ — outvia キーワードに関連付けられます。 outvia ゲートキーパー ID が見つからなかったため、発生した ARQ が処理できなかった回数を示します。これは通常、ゲートキーパー名のスペルミスが原因です。

進行中のコールに関する情報を表示するには、**show gatekeeper circuit** コマンドを入力します。

```
termgatekeeper#show running-config  
Building configuration...  
.  
.
```

```
.
gatekeeper
  zone local Z2ITSPB china 10.16.8.144
.
.
.
!
end
```

注: 一部のコマンドと出力では、「コール」はコール レッグを指すことがあります。

エンドポイント登録に関する情報を表示するには、**show gatekeeper endpoint** コマンドを入力します。

```
termgatekeeper#show running-config
Building configuration...
.
.
.
gatekeeper
  zone local Z2ITSPB china 10.16.8.144
.
.
.
!
end
```

## トラブルシューティング

ここでは、設定に関するトラブルシューティングについて説明します。

### トラブルシューティング手順

この設定に関連するトラブルシューティング情報を次に示します。設定をトラブルシューティングするには、次の手順を実行します。

IPIPGW のトラブルシューティング手順は、TDM-to-IP H.323 ゲートウェイのトラブルシューティングと同様です。通常、トラブルシューティングの作業は次に示すように行います。

1. 障害シナリオを切り分けて再現します。
2. debug コマンドと show コマンド、コンフィギュレーション ファイル、およびプロトコルアナライザを使用して関連情報を収集します。
3. プロトコルトレースや内部 debug コマンド出力では、障害の最初の兆候を識別します。
4. 原因をコンフィギュレーション ファイルで探します。

中継ゾーンがコールの失敗の原因として疑われる場合は、影響を受けるサブ機能を特定することで IPIPGW またはゲートキーパーに問題を絞り込み、そのサブ機能に関連する show コマンドおよび debug コマンドに集中します。

トラブルシューティングを開始する前に、ゲートウェイまたはゲートキーパーに問題を絞り込む必要があります。ゲートウェイおよびゲートキーパーは次のタスクを処理します。

ゲートウェイのタスク：

- メディア ストリームの処理と音声パスの整合性
- DTMF リレー

- ・ファクス リレーとパススルー
- ・番号変換およびコール処理
- ・ダイヤル ピアとコーデックのフィルタリング
- ・キャリア ID の処理
- ・ゲートウェイ ベースの課金

ゲートキーパーのタスク：

- ・ゲートウェイの選択とロードバランシング
- ・コール ルーティング ( ゾーン選択 )
- ・ゲートキーパー ベースの課金
- ・コール アドミッション、セキュリティ、帯域幅の制御
- ・コール キャパシティの適用

## トラブルシューティングのためのコマンド

[Output Interpreter Tool](#) ( OIT ) ( [登録ユーザ専用](#) ) では、特定の **show** コマンドがサポートされています。OIT を使用して、**show** コマンド出力の解析を表示できます。

注: [debug](#) コマンドを使用する前に、『[debug コマンドの重要な情報](#)』を参照してください。

### ゲートウェイ debug コマンド

- ・ **debug voip ipipgw** : IP-to-IP コールの処理に関連する情報を表示します。
- ・ **debug h225 asn1** : H.225 メッセージおよび関連イベントの asn1 部分の実際の内容が表示されます。
- ・ **debug h225 events** : H.225 メッセージおよび関連イベントの asn1 部分の実際の内容が表示されます。
- ・ **debug h245 asn1** : H.245 メッセージおよび関連イベントの asn1 部分の実際の内容が表示されます。

### ゲートキーパー debug コマンド

- ・ **debug h225 asn1** : H.225 RAS メッセージおよび関連イベントの asn1 部分の実際の内容が表示されます。
- ・ **debug h225 events** : H.225 RAS メッセージおよび関連イベントの asn1 部分の実際の内容が表示されます。
- ・ **debug gatekeeper main 10** : LRQ 処理、ゲートウェイ選択、アドミッション要求処理、プレフィクス照合、コール キャパシティなどの重要なゲートキーパー機能をトレースします。
- ・ **debug gatekeeper zone 10** : ゲートキーパーのゾーン指向の機能をトレースします。
- ・ **debug gatekeeper call 10** : トラッキング コール参照などのゲートキーパーのコール指向の機能をトレースします。
- ・ **debug gatekeeper gup asn1** : ゲートキーパー更新プロトコルメッセージおよびクラスタのゲートキーパー間の通信に関連するイベントの asn1 部分の実際の内容が表示されます。
- ・ **debug gatekeeper gup events** : ゲートキーパー更新プロトコル メッセージおよびクラスタのゲートキーパー間の通信に関連するイベントの asn1 部分の実際の内容が表示されます。
- ・ **debug ras** : 送受信された RAS メッセージ タイプおよびアドレッシングを表示します。

### ゲートウェイ show コマンド

- ・ **show h323 gateway h225** : H.225 メッセージとイベントの数を維持します。



- `show h323 gateway ras` : RAS メッセージとイベントの数を維持します。
- `show h323 gateway cause` : 接続されたゲートウェイから受信した原因コードの数を示します。
- `show call active voice [brief]` : アクティブ コールとクリアされたコールに関する情報を集約します。
- `show crm` : IPIPGW の IP 回線に関連付けられているコール キャパシティ値を示します。
- `show processes cpu` : 詳細な CPU 使用率の統計情報 ( プロセス単位の CPU 使用率 ) が表示されます。
- `show gateway` : ゲートウェイの現在のステータスが表示されます。

#### ゲートキーパー show コマンド

- `/show/clear gatekeeper performance stats` : コールの処理に関連するゲートキーパーの統計情報が表示されます。
- `show gatekeeper zone status` : ゲートキーパーが把握するローカルおよびリモート ゾーンに関する情報をリストアップします。
- `show gatekeeper endpoints` : IPIPGW を含め、ゲートキーパーに登録されているエンドポイントに関する重要情報をリストアップします。
- `show gatekeeper circuit` : 複数のゲートウェイ間の回線使用率に関する情報を組み合わせて示します。
- `show gatekeeper calls` : ローカル ゾーンで処理されるコールに関する重要情報をリストアップします。

## 関連情報

- [Cisco マルチサービス IP-to-IP ゲートウェイ アプリケーション ガイド](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)